科目名	キャリアデザインⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水　典子
		授業形態	講義		有		
（英）	Career Design Ⅱ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	5/13～9/14

講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据え、必要な知識を深める授業を行う。
目的	自らの将来像を明確にし、それを実現するために必要な情報を収集し学ぶ。問題解決力をコミュニケーションの実践を通じて養う。
科目概要	歯科医療界の動向について諸事例を元に学び将来像を明確にする。問題解決力やコミュニケーション力を今後のキャリア形成に活用する。
到達目標	・歯科医療界の動向について、その概略を記述することができる。 ・歯科医療界の動向を踏まえた、自らの将来像を説明することができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 授業後に提出する8回分のレポートを100点満点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　歯科技工管理学　（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】インターンシップなど関連科目の積極的な受講を推奨する。 【事後学習】授業を踏まえて進路決定を進めていくことを推奨する。
参考図書	別途授業内で紹介する		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/13）	キャリアセンターについて	講義	就職部門のキャリアセンターについて紹介を行う。 歯科医療業界に歯科技工士として就職するときにポイントとなる求人票の見方を紹介する。また、本校オリジナルの履歴書について、書き方の紹介を行う。
2	情報収集の方法	講義	PDCAサイクルについての講義と実践を行う。 身近な事例として、模擬試験や実技試験を題材に実践を行う。
3	患者と自分を守る感染症対策	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。
4	歯科診療に関する知識 歯科用レントゲンと診療報酬の仕組み	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。
5	歯科技工業界について　3	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。
6	歯科技工業界について　4	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。
7	将来像を明確にする　1	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。将来像を明確にする。
8 （9/14）	将来像を明確にする　2	講義	ゲスト講師：歯科技工所経営者（予定） 歯科技工所の職員が歯科技工所での歯科技工士について講義を行う。 また、医療従事者となる為に必要なことは何かを理解する。将来像を明確にする。

科目名	歯科技工士関係法規	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水　典子
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/11～5/25

講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、歯科技工士に関する法律について授業を行う。
目的	歯科技工業務に必要な関係法規を習得する。
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について、事例を交えながら理解する。
到達目標	・歯科技工士に必要な衛生行政のについて理解する。 ・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉え理解する。 ・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要が理解できるようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　歯科技工管理学　（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途授業内で紹介する。		
特記事項	主にオンデマンド授業で講義を進める。 動画授業の視聴ルールは、遠隔授業規定による。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/11）	日本の法律と医療システムについて 理解を深める	講義	歯科技工士法の成り立ちと日本の医療システムと歯科技工士業務の関係を理解する。
2	歯科技工業務について 理解を深める	講義	日頃学ぶ歯科技工の「実習」は、実際の業務となるとどのような点が同じで、どのような点が異なるのか、歯科技工業務について法律を確認しながら理解する。
3	歯科技工所について 理解を深める	講義	卒業後、多くの学生が活躍する場となる「歯科技工所」とはどのような組織なのか、法律という視点から理解する。患者さんが安心して技工物を使う、提供する側のシステムを理解する。
4	歯科技工士免許1について 理解を深める	講義	歯科技工士という「国家資格」の仕組みを理解する。（この資格も「登録」「変更」「取り消し」「返納」など、取得後も様々な手続きがあることを理解する。）
5	歯科技工士免許2について 理解を深める	講義	歯科技工士という「国家資格」の仕組みを理解する。（この資格も「登録」「変更」「取り消し」「返納」など、取得後も様々な手続きがあることを理解する。）
6	歯科医療に関する法律について 理解を深める	講義	歯科医療チームの一員として活躍する為に、歯科医療と歯科医療従事者に関する法律を用いて理解を深める。
7	衛生行政について 理解を深める	講義	歯科医療を支える、日本の医療や衛生に関する法律の概要を理解する。
8 （5/25）	解説講義	講義	9回目までの講義の理解度を定期試験を用いて確認する。

科目名	歯の解剖学応用　Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鯨岡　聡子
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Anatomy - Advanced Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	5/6～9/3

講師紹介	歯科医師として歯科大学付属病院で勤務し病理学の研究者でもある講師が、豊富な臨床経験を活かし、臨床例を交えながら講義を行う。
目的	筋の働きを中心とした口腔機能や歯の発生機構、硬組織及び歯周組織についての知識を習得する。
科目概要	講義やグループワーク、演習を通じて、安全で機能的な歯科技工物を製作するために必要な解剖学の正しい知識と理論を理解する。
到達目標	・ヒトの歯について、その特徴と成り立ちが理解できるようになる。 ・代表的な顔面筋について、その特徴を理解できるようになる。 ・歯列と咬合について理解できるようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途授業内で紹介する。		
特記事項	著作権のある資料も用いるので、講義及び提示資料の写真撮影及び録音録画には許可を求めること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/6）	オリエンテーション 1年生の復習	講義	2年生で学ぶ内容の概略を理解する。
2	「顔面筋」「歯の発生1」	講義	「顔面筋」では顔の表情を作る筋肉について理解をする。「歯の発生」ではヒトの歯はいつ、どのように作られるのか特に最初の段階について理解する。
3	歯の発生　2	講義	歯の萌出について理解する。歯の発生について概略を説明できるよう理解する。
4	まとめ「歯の発生」	講義	「歯の発生について、模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
5	歯と歯周組織　1	講義	歯とそれを支える歯肉などは、歯と歯周組織、硬組織と軟組織に分類できることを理解する。
6	歯と歯周組織　2	講義	硬組織のうち、エナメル質について、その特徴を理解する。
7	顔面の発生	講義	特別講師：中村雅典（昭和大学歯学部教授） ヒト胎児の成長過程において、顔はいつ作られるのかを知り、口腔はヒトが生き、成長する上で非常に重要な器官であることを理解する。
8	歯と歯周組織　3	講義	硬組織のうち、象牙質とセメント質について、その特徴を理解する。歯根膜の特徴を理解する。歯と歯周組織の加齢変化について、その特徴を理解する。
9	歯と歯周組織　4	講義	硬組織のうち、象牙質とセメント質について、その特徴を理解する。歯根膜の特徴を理解する。歯と歯周組織の加齢変化について、その特徴を理解する。
10	まとめ「浅頭筋と深頭筋」	講義	「浅頭筋と深頭筋」について、模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
11	口腔の隣接器官	講義	口腔の隣接器官である、呼吸器系と消化器系の構成について理解する。
12	まとめ「歯の組織」「口腔の隣接器官」	講義	「歯の組織」「口腔の隣接器官」について、模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
13	歯の異常	講義	歯の大きさや数、形や色の異常といった、代表的な異常について理解する。
14	歯列と咬合	講義	上下歯列の位置関係、切歯の咬合関係、歯の植立について理解する。
15 （9/3）	まとめ「歯の異常」「歯列と咬合」	講義	「歯の異常」「歯列と咬合」について、模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名	歯の解剖学応用 Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水 典子
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Anatomy - Advanced Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	10/12～2/17

講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、臨床実例を交えて授業を行う。
目的	「歯の解剖学」について1年生から学んだ内容の復習を行い、特に基本的な知識について習得する。
科目概要	1年生の既習事項も含めた総復習を行う。機能的な歯科技工物を製作するために、また、歯科医師や先輩歯科技工士の話す専門用語を理解して製作するために必要な知識を、様々な設問を活用して確認する。
到達目標	・歯型彫刻に活用できるヒトの歯と歯列について、その特徴と成り立ちを理解する。 ・口腔解剖について「頭蓋骨」「口腔周囲の筋」「口腔の諸器官」についてその特徴を理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点で評価する。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	適宜紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/12）	歯の解剖学まとめ 1	講義	講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解を深める。
2	歯の解剖学まとめ 2	講義	講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解を深める。
3	「正常ではない歯」とは何か	講義	教科書92～101ページ 歯の数、形態の他に、色の異常や位置の異常があることを理解する。
4	歯の解剖学まとめ 3	講義	講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解を深める。 各自が問題の分析を行い、項目を決め重点的に理解を深める。
5	歯の解剖学まとめ 4	講義	講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解を深める。 各自が問題の分析を行い、項目を決め重点的に理解を深める。
6	筋肉と骨	講義	教科書112～143ページ 顎口腔に関連する骨と筋肉について理解する。
7	歯の鑑別、歯列	講義	教科書102～109ページ 歯列に関する用語を理解する。
8	発生と組織	講義	教科書73～91ページ 「歯の発生」と「歯と歯周組織」について理解する。
9	まとめ 1	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
10	まとめ 2	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
11	まとめ 3	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
12	まとめ 4	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
13	まとめ 5	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
14	まとめ 6	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。
15 （2/17）	まとめ 7	講義	技工に必要な解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、その理解度を確認する。既習の知識を関連つけられているかどうかを設問形式やまとめプリントを使って理解を深める。

科目名	顎口腔機能学応用	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	上原　明由香
		授業形態	講義		有		
（英）	Stomatognathic Function Science-Advanced	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ｉ部	単位	1			開講期間	4/13～6/15

講師紹介	歯科診療所技工室での実務経験を有する経験豊富な教員が、歯科技工に必須である顎口腔機能について基本的な知識・技術を身につけられるよう、授業を行う。
目的	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせについての知識を習得する。
科目概要	顎の動きや歯の接触について、図や写真を交えながら理解を深める。
到達目標	・下顎の動きが理解できる。 ・咬頭嵌合位や偏心位において上下顎の歯の接触を理解できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価として、定期試験 100点満点 とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/13）	下顎位・下顎前方運動について	講義	・下顎位の名称、特徴を理解する。 ・下顎前方運動について理解する。
2	下顎側方運動について	講義	・小テスト（下顎前方運動）を実施する。 ・下顎側方運動を理解する。
3	機能運動について	講義	・小テスト（下顎側方運動）を実施する。 ・咀嚼サイクルの特徴、嚥下・発音を理解する。
4	歯の接触様式①について	講義	・小テスト（機能運動）を実施する。②機能咬頭と非機能咬頭・被蓋関係を理解する。 ・歯の接触様式（カスプトゥフォッサ・カスプトゥリッジ）を理解する。 ・練習問題（咬合嵌合位に置ける咬合接触）を解く。
5	歯の接触様式②について	講義	・小テスト（歯の接触様式）を実施する。 ・矢状面・前頭面での咬合接触（ABCコンタクト）、３点接触を理解する。 ・機能咬頭の運動方向を理解する。
6	まとめ1	講義	・「下顎位」「下顎運動」について模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
7	咬合様式 咬合検査と顎機能障害	講義	・歯の接触様式、その他の咬合様式と咬合干渉を理解する。 ・咬合検査、咬合紙検査法、咬合接触圧検査法を理解する。 ・顎機能障害、スプリント療法を理解する。
8 （6/15）	まとめ2	講義	1回目から7回目までの講義の振り返りを行う。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて講義を行い理解度を深める。

科目名	歯科理工学応用Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	羽田　多麻木
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Materials Science-Advanced Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	5/25～9/16
講師紹介	大学院歯学研究科を修了後、歯科大学病院にて臨床経験を有する歯科技工士が実例を交えながら授業する。						
目的	歯科材料（金属・レジン・セラミック）の性質や取り扱いについて、総合的に捉え理解することができる。						
科目概要	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質を理解できる。						
到達目標	1年次で学んだ歯冠修復物や義歯、矯正装置の製作手順を理解した上で、材料の特性を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は定期試験100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本　歯科理工学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習としては、1年次（あるいは現行の）実習授業で使用した使用材料や取り扱いの方法を確認しておくと良い。				
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/25）	まとめ1『材料の性質』について	講義	多くある材料の中で、適切なものを選択するためには材料の性質について理解を深める。 材料試験の種類や評価方法などを学び数値から材料の性質について理解を深める。
2	まとめ2『金属』について	講義	実習で体験した金属鋳造・加工を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
3	まとめ3『印象材』について	講義	印象材には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けを行う。 また、取り扱いを誤ると変形や寸法変化の原因となり正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
4	まとめ4『石膏』について	講義	石膏には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けをしていく必要がある。 また、取り扱いを誤ると正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
5	まとめ5『レジン』について①	講義	義歯床で使用するレジン（加熱重合・常温重合）は、成分の違いにより製作工程や精度が異なるためそれぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。 全部床義歯の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
6	まとめ6『レジン』について②	講義	レジン前装冠で使用する硬質レジン（光重合）は、同じレジンの種類でも義歯床用レジンとは成分や特性が大きく違うため、誤った製作工程により口腔内で離脱する原因となる。レジン前装冠の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
7	まとめ7『陶材』について①	講義	セラミック材料は審美歯科材料として現在注目され需要も高まっているが、成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解を深める。
8	まとめ8『陶材』について②	講義	セラミック材料は審美歯科材料として現在注目され需要も高まっているが、成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解を深める。
9	まとめ9『合金の融解、鋳造機』	講義	歯科用金属は、貴金属合金から非貴金属合金に至るまで多種あり、融解方法も鋳造方法もそれぞれに異なる。融解方法や器械の取り扱いを誤ると、口腔内で生体に悪影響を及ぼす可能性も高まる。実習で使用していない方法も含め理解を深める。
10	まとめ10『埋没材』	講義	鋳造時に使用する埋没材は、使用金属により成分も利用温度も大きく違う。適合の良い鋳造体を得るためには特性を理解し使い分けしていく必要がある。1年次からの鋳造体験を踏まえ取り扱いについて理解を深める。
11	まとめ11『鋳造欠陥』①	講義	鋳造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鋳造体験を踏まえ、鋳造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
12	まとめ12『鋳造欠陥』①	講義	鋳造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鋳造体験を踏まえ、鋳造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
13	まとめ13『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正（調整）～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
14	まとめ14『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正（調整）～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
15 （9/16）	まとめ②	講義	安全で精度の良い歯科技工物を製作するために、製作工程で使用するすべての材料について理解し取り扱うことが必須である。ここでは、製作工程を踏まえ関連させながら総合的に理解を深める。

科目名	歯科理工学応用Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	羽田　多麻木
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Materials Science-AdvancedⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	10/12～2/17

講師紹介	大学院歯学研究科を修了後、歯科大学病院にて臨床経験を有する歯科技工士が実例を交えながら授業する。
目的	歯科材料（金属・レジン・セラミック）の性質や取り扱いを理解し、得た知識を精度のよい技工物を製作するために総合的に捉え応用することができる。
科目概要	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質を理解する。
到達目標	臨床現場で使用する材料について、特性を理解し取り扱える。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点で評価する。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　歯科理工学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業では、前回の復習を10問程度の小テストで行う。 事前学習としては、1年次（あるいは現行の）実習授業で使用した 材料や取り扱いの方法を確認しておくと良い。 また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを事前に覚えておくことを推奨する。
参考図書	なし		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/12）	印象採得、模型製作、原型製作	講義	印象～ワックスアップまでの工程で使用する材料について、それぞれの特性の理解する。
2	埋没材、融解熱源、鋳造、鋳造欠陥	講義	埋没～鋳造までの工程で使用する材料について、それぞれの特性の理解する。
3	金属（貴金属合金、非貴金属合金）	講義	金属材料について、それぞれの特性の理解する。
4	義歯床用レジン①	講義	義歯床製作で使用する義歯床用レジンについて、それぞれの特性の理解する。
5	義歯床用レジン②	講義	義歯床製作で使用する義歯床用レジンについて、それぞれの特性の理解する。
6	陶材、硬質レジン	講義	義歯床製作で使用する義歯床用レジンについて、それぞれの特性の理解する。
7	まとめ①	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。
8	まとめ②	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。
9	金属の加工、熱処理	講義	金属の物性について理解を深める。
10	材料の性質①	講義	材料の機械的性質、物理的性質、化学的性質について、理解を深める。
11	材料の性質②	講義	材料の機械的性質、物理的性質、化学的性質について、理解を深める。
12	まとめ①	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。
13	まとめ②	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。
14	まとめ③	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。
15 （2/17）	まとめ④	講義	技工物の製作工程で使用するすべての材料について理解を深める。

科目名	有床義歯技工学応用Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	講義		有		
（英）	Denture Techniques-Advanced Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	4/6～9/17

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	有床義歯に関する専門的知識を習得する。
科目概要	有床義歯製作に必要な人体、材料、技工操作などを理解する。
到達目標	・歯が抜けてしまった口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。 ・全部床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。 ・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は定期試験100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　有床義歯技工学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/6）	特殊な義歯について	講義	オーバーデンチャーについて理解する。 テレスコープデンチャーについて理解する。 ノンクラスプデンチャーについて理解する。
2	下顎位、下顎運動	講義	下顎位、下顎運動について理解する。
3	義歯の修理	講義	義歯の修理方法と修理することになった原因について理解する。
4	リベース・リラインについて	講義	リベース・リラインについて、その違いと作業手順を理解する。
5	特殊な排列	講義	交叉咬合排列、無咬頭臼歯の排列について理解する。
6	部分床義歯まとめ	講義	部分床義歯製作に必要な知識を深める。
7	全部床義歯まとめ	講義	全部床義歯製作に必要な知識を深める。
8	1～7回までのまとめ	講義	1回目から7回目までの講義の振り返りを行う。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて講義を行い理解度を深める。
9	まとめ①	講義	「全部床義歯」「部分床義歯」について模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
10	部分床義歯総まとめ　Ⅰ	講義	全部床義歯製作に必要な知識を深める。
11	部分床義歯総まとめ　Ⅱ	講義	全部床義歯製作に必要な知識を深める。
12	全部床義歯総まとめ　Ⅰ	講義	全部床義歯製作に必要な知識を深める。
13	全部床義歯総まとめ　Ⅱ	講義	全部床義歯製作に必要な知識を深める。
14	まとめ②	講義	「全部床義歯」「部分床義歯」について模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
15 （9/17）	まとめ③	講義	「全部床義歯」「部分床義歯」について模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名	有床義歯技工学応用Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	講義		有		
（英）	Denture Techniques-AdvancedⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	10/5～2/16

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	「有床義歯技工学」について1年生で履修した内容のの理解を深める。
科目概要	有床義歯技工学で習得した知識について講義や練習問題を通じて総合的な基礎力を確認し、知識を深める。
到達目標	・全部床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できる。 ・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点で評価する。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート
教科書	最新歯科技工士教本　有床義歯技工学（医歯薬出版） オリジナルテキスト
参考図書	別途、授業内で紹介する。
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。
事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/5）	全部床義歯まとめ　1	講義	技工に必要な全部床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
2	全部床義歯まとめ　2	講義	技工に必要な全部床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
3	全部床義歯まとめ　3	講義	技工に必要な全部床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
4	部分床義歯まとめ　1	講義	技工に必要な部分床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
5	部分床義歯まとめ　2	講義	技工に必要な部分床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
6	部分床義歯まとめ　3	講義	技工に必要な部分床義歯について練習問題を用いて理解度の確認をし、図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
7	有床義歯技工学まとめ　1	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
8	有床義歯技工学まとめ　2	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
9	有床義歯技工学まとめ　3	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
10	有床義歯技工学まとめ　4	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
11	有床義歯技工学まとめ　5	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
12	有床義歯技工学まとめ　6	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
13	有床義歯技工学まとめ　7	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
14	有床義歯技工学まとめ　8	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。
15 （2/16）	有床義歯技工学まとめ　9	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い、理解度を深める。

科目名	全部床義歯基礎実習　Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of Complete denture Techniques Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/12～5/20

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識を習得する。
科目概要	全部床義歯製作に必要な咬合床、作業模型製作、咬合器装着に関する知識について製作を通じて確認し、有床義歯製作に必要な材料、技工操作などを理解する。
到達目標	全部床義歯用上下顎の咬合床の完成と全部床義歯の前歯部排列を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/12）	作業模型製作	実習	・咬合床義歯用の作業模型を製作する。
2	サベイング・設計・ポストダム形成	実習	・咬合床用の作業模型をサベイングし、咬合床を設計する。ポストダムを形成する。
3	サベイング・設計・ポストダム形成	実習	・咬合床用の作業模型をサベイングし、咬合床を設計する。ポストダムを形成する。
4	基礎床圧接	実習	・基礎床用のトレーレジンを圧接する。
5	基礎床形態修正	実習	・基礎床の形態修正を行う。
6	蝋堤の取り付け	実習	・蝋堤の大まかな位置設定する。
7	蝋堤の修正	実習	・蝋堤の細かな位置を決めていく。
8	仕上げ	実習	・蝋堤の仕上げを行う。
9	咬合床完成提出	実習	・咬合床の完成、提出する。
10	上顎　咬合床装着	実習	・上顎咬合床を咬合器に装着する。
11	下顎　咬合床装着	実習	・下顎咬合床を咬合器に装着する。
12	上顎前歯部人工歯排列	実習	・上顎前歯部排列を行う。
13	上顎前歯部人工歯排列	実習	・上顎前歯部排列を行う。
14	下顎前歯部人工歯排列	実習	・下顎前歯部排列を行う。
15 （5/20）	下顎前歯部人工歯排列	実習	・下顎前歯部排列を行う。

科目名	全部床義歯基礎実習 Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of Complete denture Techniques Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科 Ⅰ部	単位	1			開講期間	5/24～7/5

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識を習得する。
科目概要	全部床義歯製作に必要な咬合床、作業模型製作、咬合器装着に関する知識について製作を通じて確認し、有床義歯製作に必要な材料、技工操作などを理解する。
到達目標	全部床義歯のレジン填入まで製作できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/24）	下顎臼歯部人工歯排列	実習	・下顎臼歯部人工歯排列を行う。
2	下顎臼歯部人工歯排列	実習	・下顎臼歯部人工歯排列を行う。
3	上顎臼歯部人工歯排列	実習	・上顎臼歯部人工歯排列を行う。
4	上下顎臼歯部人工歯排列調整	実習	・上下顎臼歯部人工歯排列を調整する。
5	上下唇頬側部歯肉形成	実習	・上下顎臼歯部頬側～前歯部唇側の歯肉形成を行う。
6	上下唇頬側部歯肉形成	実習	・上下顎臼歯部頬側～前歯部唇側の歯肉形成を行う。
7	下顎舌側部歯肉形成	実習	・下顎舌側部の歯肉形成を行う。
8	上顎舌側部歯肉形成	実習	・上顎舌側部の歯肉形成を行う。
9	フラスコ埋没	実習	・蝋義歯フラスコに埋没する。
10	フラスコ埋没	実習	・蝋義歯フラスコに埋没する。
11	フラスコ埋没～流蝋	実習	・蝋義歯フラスコに埋没する。埋没したフラスコを流蝋する。
12	流蝋	実習	・上下顎埋没した蝋義歯を流ろうする。
13	流蝋	実習	・上下顎埋没した蝋義歯を流ろうする。
14	レジン填入	実習	・加熱重合レジンを填入する。
15 （7/5）	レジン填入	実習	・加熱重合レジンを填入する。

科目名	全部床義歯基礎実習 Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of Complete denture TechniquesⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科 Ⅰ部	単位	1			開講期間	7/19～9/13

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識を習得する。
科目概要	全部床義歯製作に必要な蠟義歯の埋没、重合、咬合調整、研磨から完成までの製作工程を通じて有床義歯製作に必要な材料、技工操作などを理解する。
到達目標	全部床義歯を完成させることができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1（7/19）	掘り出し	実習	・重合を終えた義歯を掘り出す。
2	咬合器再装着	実習	・咬合器に再装着する。
3	削合①	実習	・中心咬合位の選択削合を行う。
4	削合②	実習	・中心咬合位の選択削合を行う。
5	削合③	実習	・偏心位の選択削合を行う。
6	削合④	実習	・自動削合を行う。
7	形態修正	実習	・人工歯の調整・形態修正を行う。
8	荒研磨①	実習	・形を整え表面を滑らかにする。
9	荒研磨②	実習	・形を整え表面を滑らかにする。
10	荒研磨③	実習	・形を整え表面を滑らかにする。
11	仕上げ研磨①	実習	・レーズを使用し砂を使いより滑らかにする。
12	仕上げ研磨②	実習	・レーズを使用し砂を使いより滑らかにする。
13	仕上げ研磨③	実習	・艶出し研磨を行う。
14	仕上げ④	実習	・艶出し研磨を行う。
15（9/13）	全部床義歯完成提出	実習	・細部の仕上げを行い完成させる。

科目名	有床義歯総合実習　Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of denture Techniques Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	10/4～11/1
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の基本技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯人工歯排列・歯肉形成のについて180分で完成できるようにトレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いて自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の技術を練磨し、180分で完成できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	前期に習得した全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の製作手順を実習プリントで確認しておくと良い。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/4）	トレーニング模型上顎臼歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し上顎4前歯の排列を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
2	トレーニング模型下顎臼歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し下顎4臼歯の排列を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
3	トレーニング模型上下顎臼歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し、上下臼歯部の排列を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
4	トレーニング模型上顎前歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し蝋堤カットから上顎6前歯の排列を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
5	トレーニング模型下顎前歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し蝋堤カットから下顎6前歯の排列を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
6	トレーニング模型上下顎前歯排列	実習	・トレーニング模型を使用し上下顎前歯の排列を行う。 自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
7	トレーニング模型臼歯部歯肉形成	実習	・トレーニング模型を使用し臼歯部の歯肉形成を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
8	トレーニング模型下顎前歯部歯肉形成	実習	・トレーニング模型を使用し下顎前歯部の歯肉形成を行う。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
9	トレーニング模型上顎前歯部歯肉形成	実習	・トレーニング模型を使用し上顎前歯部の歯肉形成を行う。 自己チェック、ライターチェックを行い、修正点を理解する。
10	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成することができるようになる。 ・製作時間は180分間とする。
11	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成することができるようになる。 ・製作時間は180分間とする。 ・自己チェックを行い、修正点を明確にする。
12	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターがチェックを行い、修正できるようになる。
13	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをできるようになる。 ・製作時間は180分間とする。
14	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをできるようになる。 ・製作時間は180分間とする。 ・自己チェックを行い、修正点を明確にする。
15 （11/1）	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターがチェックを行い、できるようになる。

科目名	有床義歯総合実習 Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of denture Techniques Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科 Ⅰ部	単位	1			開講期間	11/4～12/2

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の基本技術を習得する。
科目概要	全部床義歯人工歯排列・歯肉形成のについて150分で完成できるようにトレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いて自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。
到達目標	全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の技術を練磨し、決められた150分で完成できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等
参考図書	別途、授業内で紹介する。
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。
事前事後学習とその内容	前期に習得した全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の製作手順を実習プリントで確認しておくと良い。

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1（11/4）	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。
2	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。 ・自己チェック、ライターチェックを行い、修正ができるようになる。
3	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターのチェックをうけ、自己チェックとの違いを確認し作品の修正ができるようになる。
4	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。
5	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。 ・自己チェックを行い、修正ができるようになる。
6	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターのチェックをうけ、自己チェックとの違いを確認し作品の修正修正ができるようになる。
7	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。
8	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を理解する。 ・製作時間は150分間とする。 ・自己チェックを行い、修正ができるようになる。
9	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターのチェックをうけ、自己チェックとの違いを確認し作品の修正ができる。
10	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を確認する。 ・製作時間は150分間とする。
11	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を確認する。 ・製作時間は150分間とする。 ・自己チェックを行い、修正ができるようになる。
12	トレーニング修正・蝋堤準備	実習	・ライターのチェックをうけ、自己チェックとの違いを確認し作品の修正ができるようになる。
13	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を確認する。 ・製作時間は150分間とする。
14	咬合床トレーニング排列・歯肉形成	実習	・トレーニングを活かし、作業をつなげて完成までをトレーニングし手順を確認する。 ・製作時間は150分間とする。 ・自己チェックを行い、修正ができるようになる。
15（12/2）	認定試験準備	実習	・新しい咬合床を装着し次回準備を行う。 ・手順の確認ができる。

科目名	有床義歯総合実習 Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Basic Training of denture TechniquesⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科 Ⅰ部	単位	1			開講期間	12/9～2/24
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な線屈曲の技術を習得する。						
科目概要	ワイヤー屈曲の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いて自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	指定されたワイヤー屈曲の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」（医歯薬出版）「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	事前学習として、以前に習得した線屈曲の製作手順を実習プリントで確認しておくと良い。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1（12/9）	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
2	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
3	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
4	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
5	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
6	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
7	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
8	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
9	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
10	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
11	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
12	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
13	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
14	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。
15（2/24）	線屈曲トレーニング	実習	・図形に合わせ線屈曲ができるようになる。 ・時間は30分とする。 ・ライターのチェック後、修正し完成度を高めることができるようになる。

科目名	歯冠修復技工学応用Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	菅原　克彦
		授業形態	講義		有		
（英）	Restorative Dentistry Advanced Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	5/18～9/15

講師紹介	有限会社ケイエスデンタル（歯科技工所）の代表取締役であり、業界を代表する歯科技工士でもある講師が、豊富な臨床実務経験を活かし、審美技工に必要な知識や理論について授業を行う。
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。
科目概要	前装冠やインプラントを中心に臨床的な模型で歯冠修復物（人工臓器）を製作するのに必要な理論や基本的な製作方法を理解する。
到達目標	・陶材焼付金属冠の特徴について理解することができる。 ・陶材焼付金属冠とレジン前装冠の違いについて理解することができる。 ・インプラントの特徴や構造について理解することができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	授業で必要な教科書、講義プリントを準備し、授業に参加すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/18）	陶材焼付金属冠①	講義	・陶材焼付金属冠の概要と特徴を理解する。 ・陶材焼付金属冠のフレーム形態を理解する。 ・ディギャッシングの目的・方法、オペークの目的を理解する。
2	陶材焼付金属冠②	講義	・陶材築盛時のコンデンスの目的について理解する。 ・陶材の焼成方法、グレーズについて理解する。 ・グレーズとディギャッシングの違いについて理解する。
3	陶材焼付金属冠③	講義	・前回までの陶材焼付金属冠①②の復習。 ・陶材焼付金属冠を製作するための融点、製作順序について理解する。 ・陶材焼付金属冠とレジン前装冠の利点・欠点について理解する。
4	ジャケットクラウン オールセラミックスクラウン	講義	・ジャケットクラウンの種類と特徴について理解する。 （金属箔マトリックス・耐火材マトリックス） ・支台歯形態と特徴について理解する。
5	CAD/CAMシステム	講義	・CAD/CAMシステムの種類と特徴について理解する。 ・システムの構成を理解する。 ・CAD/CAMの利点欠点について理解する。
6	適合	講義	・修復物の適合不良について理解する。 ・修復物が歯型、支台歯に戻らない原因について理解する。 ・咬合が高くなる、低くなる原因について理解する。
7	インプラント	講義	・インプラントの概要、特徴について理解する。 ・インプラントの種類について理解する。 ・上部構造製作時の注意点について理解する。
8	7回までのまとめ	講義	1回目から7回目までの講義の振り返りを行う。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて講義を行い理解度を深める。
9	まとめ①	講義	概説（歯冠修復物の分類含む）、生物学的要件（隣接接触点、豊隆）、 一部被覆冠、インレーについて模擬試験形式で授業内容を振り返り理解を深める。
10	まとめ②	講義	印象材、研究用模型、個人トレーナー・個歯トレー、作業用模型、辺縁形態、支台築造、テンポラリークラウンついて模擬試験形式で授業内容を振り返り理解を深める。
11	まとめ③	講義	構造力学的要件、化学的要件、審美的要件、蝋型採得・スプルー、埋没・研磨、 全部金属冠、レジン前装冠について模擬試験形式で授業内容を振り返り理解を深める。
12	まとめ④	講義	ブリッジ、ポンティック、連結法、半固定性ブリッジ、鑞付け法について模擬試験形式で授業内容を振り返り理解を深める。
13	まとめ⑤	講義	9～12回までの講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
14	まとめ⑥	講義	陶材焼付金属冠（特徴、築盛、製作順序、鑞付け）、ジャケットクラウン、 インプラントついて模擬試験形式で授業内容を振り返り理解を深める。
15 （9/15）	まとめ⑦	講義	9～14回までの講義を模擬試験形式で授業内容を振り返り、その理解度を確認する。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名	歯冠修復技工学応用Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	馬場　知子
		授業形態	講義		有		
（英）	Restorative Dentistry Advanced Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	10/5～2/16

講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が 歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。
目的	「歯冠修復技工学」について1年生からの学びを総合的に復習することを目的とする。
科目概要	歯冠修復技工学で習得した知識について講義や練習問題を通じて総合的な基礎力を確認し、知識を深める。
到達目標	・解説講義と練習問題を通じて、知識を定着させることができるようになる。 ・卒業試験において国家試験合格基準である60%以上の正解を得ることができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点で評価する。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事後学習として、模擬試験にて不正解になった問題を全問解答し、わからない部分はノートや教科書を見て誤った箇所を訂正する。教科書に載っている「写真」の下の文章を読んで置くことを推奨する。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/5）	歯冠修復技工学まとめ　1	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
2	歯冠修復技工学まとめ　2	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
3	歯冠修復技工学まとめ　3	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行うい理解度を深める。
4	歯冠修復技工学まとめ　4	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
5	歯冠修復技工学まとめ　5	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
6	歯冠修復技工学まとめ　6	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
7	歯冠修復技工学まとめ　7	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
8	歯冠修復技工学まとめ　8	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
9	歯冠修復技工学まとめ　9	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
10	歯冠修復技工学まとめ　10	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
11	歯冠修復技工学まとめ　11	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
12	歯冠修復技工学まとめ　12	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
13	歯冠修復技工学まとめ　13	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
14	歯冠修復技工学まとめ　14	講義	出題範囲が高く、さらによく間違えやすい項目を中心にまとめ講義をおこなう。 さらに練習問題を用いて理解度を深める。
15 （2/16）	歯冠修復技工学まとめ　15	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名	歯冠修復応用実習Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛治田　忠彦
		授業形態	実習		有		
（英）	Advanced Training of Restorative Dentistry Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/13～5/11

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院で30年以上もの臨床経験を有する教員が、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場でも役立つテクニックを交え、授業を行う。
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。
科目概要	臨床模型を用いた模型の製作やワックスアップから、歯冠色材料（レジン）の築盛、形態修正を行う。
到達目標	・歯列に調和した（豊隆、咬合接触、隣接面接触など）クラウンを製作することができる。 ・咬頭の運動路を理解した蝋型を完成できる。 ・レジンの操作手順を理解し、レジン前装冠として完成させることができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。欠席や実習の遅れは、教員の指示を仰ぐこと。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/13）	前歯の蝋型完成・ 作業模型の基底面削除	実習	①上顎前歯のワックスアップの盛上げ手順を理解する。②上顎前歯の歯冠形態を理解する。③唇側のシリコンコア採得～石膏注入まで行う。④作業模型の一次石膏の削除方法の反複操作をする。
2	前歯の蝋型完成・ 作業模型の基底面削除	実習	①上顎前歯のワックスアップの盛上げ手順を理解する。②上顎前歯の歯冠形態を理解する。③唇側のシリコンコア採得～石膏注入まで行う。④作業模型の一次石膏の削除方法の反複操作を行う。
3	窓あけ・ダウェルピン植立	実習	①上顎前歯の窓あけ手順を理解する。②レジンの削除範囲や削除量を理解する。③前歯のダウェルピン植立の位置を理解する。
4	硬質レジンの築盛	実習	①陶材とレジンのメタルフレーム形態の違いを理解する。②陶材とレジンの結合方法の違いを理解する。③メタルプライマーの操作方法を覚え役割を理解する。④オペークレジンの操作方法を覚え目的を理解する。⑤歯冠色レジンの操作手順を習得する。
5	硬質レジンの築盛～形態修正・ 二次石膏注入	実習	①歯冠の内部構造（指状構造）を理解する。②エナメル色レジンの築盛方法を覚え理解する。③硬質の形態修正の手順を習得する。④作業模型の二次石膏注入の反複操作を行う。
6	硬質レジンの築盛～形態修正・ 二次石膏注入	実習	①歯冠の内部構造（指状構造）を理解する。②エナメル色レジンの築盛方法を覚え理解する。③硬質の形態修正の手順を習得する。④作業模型の二次石膏注入の反複操作を行う。
7	小臼歯（1年次）の研磨完成・ 作業模型のトリミング	実習	①硬質レジンの研磨方法を習得する。②レジンと金属の境界部の研磨方法を習得する。
8	歯型の分割・ 上顎大臼歯の蝋型採得	実習	①歯型分割の反複操作をする。②前歯の辺縁形態のトリミング方法を覚える。③前歯の辺縁形態を理解する。④上顎大臼歯のフィッシュマウスの練習を行う。
9	歯型の分割・ 上顎大臼歯の蝋型採得	実習	①歯型分割の反複操作をする。②前歯の辺縁形態のトリミング方法を習得する。③前歯の辺縁形態を理解する。④上顎大臼歯のフィッシュマウスの練習を行う。
10	咬合器装着・ フィッシュマウスの練習	実習	フィッシュマウスの練習を行う。
11	咬合器装着・ フィッシュマウスの練習	実習	フィッシュマウスの練習を行う。
12	上顎大臼歯の蝋型採得	実習	①A・B・Cコンタクトの咬合接触の付与ができる。②咬頭の運動路を理解し蝋型を完成させる。
13	埋没鋳造・下顎作業模型の製作	実習	①蝋型の埋没・鋳造操作の反複操作を行う。②一次石膏の削除～ダウェルピン植立・模型完成までの反複操作を行う。
14	埋没鋳造・下顎作業模型の製作	実習	①蝋型の埋没・鋳造操作の反複操作を行う。②一次石膏の削除～ダウェルピン植立・模型完成までの反複操作を行う。
15 （5/11）	硬質レジンの築盛～形態修正・ 二次石膏注入	実習	①歯冠の内部構造（指状構造）を理解する。②エナメル色レジンの築盛方法を覚え理解する。③硬質の形態修正の手順を習得する。④作業模型の二次石膏注入の反複操作を行う。

科目名	歯冠修復応用実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛治田　忠彦
		授業形態	実習		有		
（英）	Advanced Training of Restorative Dentistry Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	5/12～6/21

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院で30年以上もの臨床経験を有する教員が、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場でも役立つテクニックを交え、授業を行う。
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。
科目概要	金属やプラスティック、セラミックなどの材料を使い、臨床模型を用いた模型の製作やワックスアップを実践する。
到達目標	・歯列に調和した（豊隆、咬合接触、隣接面接触など）クラウンを製作することができる。 ・マージン修正時、内面にワックスの境目やしわの無いように修正ができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （5/12）	臨床複模型実習 （支台築造の蝋型採得）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②歯質が残っている場合の形態を理解する。③残根状態の形態を理解する。
2	臨床複模型実習 （支台築造の蝋型採得）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②歯質が残っている場合の形態を理解する。③残根状態の形態を理解する。
4	臨床複模型実習 （築造体にスプルー植立）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②歯質が残っている場合のスプルー植立を理解する。③残根状態のスプルー植立を理解する。④埋没操作の反復操作を行う。
3	臨床複模型実習 （築造体にスプルー植立）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②歯質が残っている場合のスプルー植立を理解する。③残根状態のスプルー植立を理解する。④埋没操作の反復操作を行う。
4	臨床複模型実習 （研究模型の製作）・鋳造操作	実習	①臨床的な模型で研究模型を製作する。②上顎研究模型の外形・辺縁トリミングの方法を理解する。③鋳造操作の反復操作を行う。④低融銀合金の溶解方法を習得する。
5	臨床複模型実習 （研究模型の製作）・鋳造操作	実習	①臨床的な模型で研究模型を製作する。②上顎研究模型の外形・辺縁トリミングの方法を理解する。③鋳造操作の反復操作を行う。④低融銀合金の溶解方法を習得する。
6	臨床複模型実習 （コアの軸面調整・個歯トレー製作）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②メタルコアの軸面の調整方法を理解する。③臨床的な模型で個歯トレーを製作する。④スペーサー・ストッパーを付与し理解する。
7	臨床複模型実習 （コアの軸面調整・個歯トレー製作）	実習	①臨床的な模型でメタルコアを製作する。②メタルコアの軸面の調整方法を理解する。③臨床的な模型で個歯トレーを製作する。④スペーサー・ストッパーを付与し理解する。
8	臨床複模型実習 （個歯トレー製作・歯型トリミング）	実習	①臨床的な模型で個歯トレーを製作する。②天蓋を付与し個歯トレーの形態を整える。③臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。④ショルダー部のトリミング方法を習得する。
9	臨床複模型実習 （個歯トレー製作・歯型トリミング）	実習	①臨床的な模型で個歯トレーを製作する。②天蓋を付与し個歯トレーの形態を整える。③臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。④ショルダー部のトリミング方法を習得する。
10	臨床複模型実習 （暫間被覆冠製作・前歯蝋型採得）	実習	①臨床的な模型で暫間被覆冠を製作する。②クラウンフォーマー法を理解する。③臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。④前装冠のワックスアップの反複操作を行う。
11	臨床複模型実習 （暫間被覆冠製作・前歯蝋型採得）	実習	①臨床的な模型で暫間被覆冠を製作する。②クラウンフォーマー法を理解する。③臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。④前装冠のワックスアップの反複操作を行う。
12	臨床複模型実習 （前歯蝋型窓あけ）	実習	①臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。②前装冠の窓あけの反複操作を行う。③前装冠のスプルー植立～埋没の反複操作を行う。
13	臨床複模型実習 （前歯蝋型窓あけ）	実習	①臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。②前装冠の窓あけの反複操作を行う。③前装冠のスプルー植立～埋没の反複操作を行う。
14	臨床複模型実習 （メタルフレーム完成）	実習	①臨床的な模型で前装冠のフレームを製作する。②鋳造の反複操作を行う。③前装冠のメタルフレーム調整の反複操作を行う。
15 （6/21）	完成・提出	実習	全部金属冠、レジン前装冠、メタルコア、個歯トレー、テンポラリークラウンを完成させ提出する。

科目名	歯冠修復総合実習Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛治田　忠彦
		授業形態	実習		有		
（英）	Comprehensive Training of Restoratice Dentistry Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	10/5～10/27

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院で30年以上の臨床経験を有する教員が、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場でも役立つテクニックを交え、授業を行う。
目的	指定された歯種のワックスアップを決められた時間内で製作する技術を習得する。
科目概要	蠟型採得の反復練習を通じて形態の再現度を高める。
到達目標	・設定時間内に主溝、外形を完成することができるようになる。 ・歯列に調和した（豊隆、咬合接触、隣接面接触など）クラウンが製作できる。 ・トレーニングを通して課題を発見し、チェックシートを用いながら修正できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートを20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず準備すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/5）	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備15分、Cr①模型A（ブルー）ワックスアップ45分、説明&自己チェック20分、の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
2	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr①フィードバック＆修正を行う。 ・Cr②模型B（グレー）ワックスアップ45分、説明&自己チェック20分、の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
3	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr②フィードバック＆修正30分 ・Cr③模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
4	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr③フィードバック＆修正30分 ・Cr④模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
5	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr④フィードバック＆修正30分 ・Cr⑤模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
6	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑤フィードバック＆修正30分 ・Cr⑥模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
7	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑥フィードバック＆修正30分 ・Cr⑦模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
7.5	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑦フィードバック＆修正30分 ・Cr⑧模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
9	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑧フィードバック＆修正30分 ・Cr⑨模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
10	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑨フィードバック＆修正30分 ・Cr⑩模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
11	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑩フィードバック＆修正30分 ・Cr⑪模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
12	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑪フィードバック＆修正30分 ・Cr⑫模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
13	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑫フィードバック＆修正30分 ・Cr⑬模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
14	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑬フィードバック＆修正30分 ・Cr⑭模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
15 （10/27）	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑭フィードバック＆修正30分 ・Cr⑮模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。

科目名	歯冠修復総合実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛治田　忠彦
		授業形態	実習		有		
（英）	Comprehensive Training of Restoratice Dentistry Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	11/2～12/2
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院で30年以上の臨床経験を有する教員が、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場でも役立つテクニックを交え、授業を行う。						
目的	指定された歯種のワックスアップを決められた時間内で製作する技術を習得する。						
科目概要	蠟型採得の反復練習やデッサンを通じて、歯冠形態回復のスピードと正確さを身に付ける。						
到達目標	・設定時間内に主溝、外形を完成することができるようになる。 ・歯列に調和した（豊隆、咬合接触、隣接面接触など）クラウンを製作できる。 ・トレーニングを通して課題を発見し、チェックシートを用いながら修正できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず準備すること。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （11/2）	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑮フィードバック＆修正30分 ・Cr⑯模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
2	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑯フィードバック＆修正30分 ・Cr⑰模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
3	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑰フィードバック＆修正30分 ・Cr⑱模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
4	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑱フィードバック＆修正30分 ・Cr⑲模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
5	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑲フィードバック＆修正30分 ・Cr⑳模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
6	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr⑳フィードバック＆修正30分 ・Cr21模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
7	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr21フィードバック＆修正30分 ・Cr22模型B（グレー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
8	ワックスアップトレーニング	実習	・説明＆準備10分、Cr22フィードバック＆修正30分 ・Cr23模型A（ブルー）ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。
9	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
10	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
11	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
12	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
13	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
14	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。
15 （12/2）	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認できるようになる。

科目名	歯冠修復総合実習Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛治田　忠彦
		授業形態	実習		有		
（英）	Comprehensive Training of Restoratice Dentistry Ⅲ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	12/7～3/11

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院で30年以上の臨床経験を有する教員が、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場でも役立つテクニックを交え、授業を行う。
目的	実習トレーニングを通して自らの課題を発見し、解決できる力を習得する。
科目概要	蠟型採得の反復練習やデッサンを通じて、副溝のスピードと正確さを身に付ける。
到達目標	・設定時間内に主溝、外形を完成することができる。 ・歯列に調和した（豊隆、咬合接触、隣接面接触など）クラウンを製作できる。 ・トレーニングを通して課題を発見し、チェックシートを用いながら修正できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず準備すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （12/7）	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
2	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
3	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
4	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
5	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
6	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
7	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
8	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
9	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
10	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面（切縁）、頬側面、舌側面をデッサンができるようになる。【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認きるようになる。
11	卒業前実習	実習	就職先・進学先にあった実習を選択し、模型製作から完成までできるようになる。 【実習選択】有床、修復、矯正
12	卒業前実習	実習	就職先・進学先にあった実習を選択し、模型製作から完成までできるようになる。 【実習選択】有床、修復、矯正
13	卒業前実習	実習	就職先・進学先にあった実習を選択し、模型製作から完成までできるようになる。 【実習選択】有床、修復、矯正
14	卒業前実習	実習	就職先・進学先にあった実習を選択し、模型製作から完成までできるようになる。 【実習選択】有床、修復、矯正
15 （3/11）	卒業前実習	実習	就職先・進学先にあった実習を選択し、模型製作から完成までできるようになる。 【実習選択】有床、修復、矯正

科目名	矯正歯科技工学各論	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	田代　慎
		授業形態	講義		有		
（英）	Particular Theories of Orthodontics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/6～5/16
講師紹介	歯科医師として歯科大学附属病院で臨床経験を有する講師と、歯科技工士として歯科大学附属病院での臨床経験を有する教員が講義を行う。						
目的	各種矯正装置の役割や分類、構造を学び、製作方法を習得する。						
科目概要	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的技法を理解する。						
到達目標	各種不正咬合の治療の為の主要な矯正装置の役割や製作手順を理解できる。 各種装置の基本構造と製作手順、実際の使用方法や適応症について理解を深め、歯や顎骨を移動させているのか理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本　矯正歯科技工学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/6）	矯正総論について	講義	・矯正装置を学ぶために必要な基礎知識について理解する。
2	矯正装置　Ⅰ	講義	・矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
3	矯正装置　Ⅱ	講義	・矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
4	矯正装置　Ⅲ	講義	・矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
5	矯正装置　Ⅳ	講義	・矯正装置のうち保定装置について構成・製作方法について理解する。
6	まとめ講義　Ⅰ	講義	・矯正装置について構成・製作方法などについて理解を深める。
7	まとめ講義　Ⅱ	講義	・矯正装置について構成・製作方法などについて理解を深める。
8 （5/16）	総まとめ	講義	・矯正装置について構成・製作方法などについて理解を深める。

科目名	小児歯科技工学各論	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	田中　光郎
		授業形態	講義		有		
（英）	Particular Theories of Pedodontics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/28～6/15

講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院にて臨床経験を有する講師が、小児歯科に関する様々な学会での業界動向も交えた授業を行う。
目的	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について習得する。
科目概要	小児歯科分野で歯科技工を行うために、歯冠修復と咬合誘導について装置の使用目的、構成と製作方法を中心に理解を深める。
到達目標	・小児歯科で用いられる歯冠修復物の、目的を理解し、成人の歯冠修復との相違点を習得する。 ・各種咬合誘導装置について、理論と装置の構成、その製作方法を習得する。 ・代表的な口腔習癖及びその習慣をやめさせる装置について、装置の構成と使用効果、製作方法について習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　小児歯科技工学　（医歯薬出版株式会社）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	適宜紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/28）	乳歯の歯冠修復	講義	小児の歯冠修復の種類と特徴を理解する。
2	咬合誘導装置	講義	咬合誘導装置に静的と動的があることを理解し、静的咬合誘導装置である保隙装置の意義について理解する。保隙装置の種類と、それぞれの利点、欠点を理解する。
3	咬合誘導装置	講義	動的咬合誘導装置であるスペースリゲーナーの意義について理解する。
4	咬合誘導装置と口腔習癖除去装置	講義	動的咬合誘導装置であるスペースリゲーナーの意義について理解する。 また、口腔習癖と口腔習癖除去装置の概要を理解する。
5	咬合誘導装置に用いる維持装置	講義	維持装置の種類と、代表的な維持装置について理解する。
6	歯科医師国家試験問題を用いた復習	講義	歯科医師国家試験の技工分野問題の解説書作成を通じて重要項目を確認する。 次回授業で行う「発表」準備を通じて、学んだ知識が理解できているかを確認する。
7	歯科医師国家試験問題を用いた復習	講義	歯科医師国家試験の技工分野問題の解説書作成を通じて重要項目を確認する。 重要項目の発表を通じて、学んだ知識が理解できているかを確認する。
8 （6/15）	小児歯科技工学各論まとめ	講義	「乳歯の歯冠修復」「咬合誘導装置」「咬合誘導装置と口腔習癖除去装置」「咬合誘導装置に用いる維持装置」の理解度を深める。

科目名	小児歯科技工実習	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	西山　輝
		授業形態	実習		有		
（英）	Practical Training of Pedodontics	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ｉ部	単位	1			開講期間	6/24～8/19

講師紹介	大手矯正技工所に勤務し、現在は矯正歯科技工所を経営して豊富な臨床経験を有する講師が、その経験を活かし実習を行う。
目的	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的技法を習得する。
科目概要	各種矯正装置の役割や構造、製作方法について、装置製作に必要な「線屈曲」「自在ロー付け」2つの操作を理解する。
到達目標	各種主要な矯正装置製作の技術である矯正線の屈曲法、自在ロー着技法、舌側弧線装置、ホーレーの保定装置の製作を行い、役割や製作手順について必要な理論と技術を理解し、自力で製作できるように、ステップや注意点を確認しながら進められる力を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートを20点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」（医歯薬出版）、「オリジナル実習帳」	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び、録画撮影を許可する。ただし、SNS等での拡散は禁止します。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （6/24）	STロック鑞着	実習	歯頸部寄りにSTロックを正しい位置に鑞着を行う。 アンチフラックスの処理を行う。 適切な鑞着量を理解する。
2	STロック鑞着	実習	歯頸部寄りにSTロックを正しい位置に鑞着を行う。 アンチフラックスの処理を行う。 適切な鑞着量を追加する。
3	主線の屈曲	実習	手指で屈曲を行う。 細部はアダムスのプライヤーで調整を行う 脚部の屈曲を終えてから主線の切断を行う。
4	主線の屈曲～脚部の屈曲①	実習	チューブの下縁と第二小臼歯歯頸部の高さを参考に屈曲を行う。 鑞付けを考えた、正しい切断を理解する。
5	主線の屈曲～脚部の屈曲②	実習	チューブの下縁と第二小臼歯歯頸部の高さを参考に屈曲を行う。 鑞付けを考えた、正しい切断を理解する。
6	主線と脚部の鑞付け	実習	正しい鑞着方向と鑞着量で仕上げを行う。 接合部模型の粘膜面に小豆大の窪みを製作する。 アンチフラックスの処理を行う。
7	補助弾線の屈曲・鑞付け①	実習	補助弾線の設計を行う。 歯面に沿った鑞付けを行う。 焼きなまされないよう、処理する。
8	補助弾線の屈曲・鑞付け②	実習	補助弾線の設計を行う。 歯面に沿った鑞付けを行う。 焼きなまされないよう、処理する。
9	装置の研磨・完成	実習	研磨を行う。 補助弾線の屈曲を行う。
10	保隙装置の模型製作	実習	模型製作を行う。 ポートフォリオの記入を行う。
11	保隙装置の模型製作	実習	模型の調整を行う。 乳歯用既製金属冠の調整を行う。 矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
12	クラウンループ保隙装置の製作	実習	矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
13	クラウンループ保隙装置の製作	実習	矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
14	クラウンループ保隙装置の製作	実習	自在ロウ着の準備を行う。 矯正用ワイヤーと金属冠を自在ロウ着する。
15 （8/19）	クラウンループ保隙装置の製作	実習	研磨作業を行い、クラウンループを完成させる。

科目名	歯型彫刻応用　Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水　典子
		授業形態	実習		有		
（英）	Advanced Training of Dental Carving Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	10/4～12/24

講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯型彫刻の手法を用いて、技工物製作の基本となる歯の形態を細部にわたり製作できるようになる。
科目概要	デッサンと模刻を繰り返し練習し、歯の形態を理解する。
到達目標	・歯型彫刻については見本模型を用いず40分以内に指定した歯種の外形と主溝を再現することができる。 ・歯のデッサンについては、見本模型を用いず20分以内に指定した歯種についての5面の線画（外形と主溝）を描記できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品（各評価の平均値）80点、レポート20点で評価する。提出物の期限は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本　口腔・顎顔面解剖学　（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。
参考図書	適宜紹介する。		
特記事項	デモンストレーション及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （10/4）	上顎右側犬歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。荒彫りの注意点を理解する。
2	上顎右側犬歯 見ないで面取り～仕上げ完成	実習	面取りを模型やプリントを見ないで実施し、完成後に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成する。
3	上顎左側犬歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。荒彫りの注意点を理解する。
4	上顎左側犬歯 見ないで面取り～仕上げ完成	実習	面取りを模型やプリントを見ないで実施し、完成後に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成する。
5	上顎右側第一小臼歯 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取り後、チェックを受け、荒彫りを進める。逆表徴の表現を理解する。
6	上顎右側第一小臼歯 見ないで面取り～仕上げ完成	実習	面取りを模型やプリントを見ないで実施し、完成後に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成する。
7	上顎左側第一小臼歯 見ないで面取り～仕上げ完成	実習	面取りを見ないで行い、に模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成する。
8	下顎右側第一小臼歯 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進めることができるようになる。
9	下顎右側第一小臼歯 見ないでデッサン、面取り～仕上げ完成	実習	見本模型なしでデッサンをする。完成後はチェックと修正をする。面取りを見本模型や実習帳なしで実施し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。
10	下顎左側第一小臼歯 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進めることができるようになる。
11	下顎左側第一小臼歯 見ないでデッサン、面取り～仕上げ完成	実習	見本模型なしでデッサンをする。完成後はチェックと修正をする。面取りを見本模型や実習帳なしで実施し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。
12	下顎右側第二小臼歯 見てデッサン、面取り～荒彫り	実習	形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。ステップチェックを受けながら面取りを完成させ、その後、荒彫りを進めることができるようになる。
13	下顎右側第二小臼歯 見ないでデッサン、面取り～仕上げ完成	実習	見本模型なしでデッサンをする。完成後はチェックと修正をする。面取りを見本模型や実習帳なしで実施し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。
14	上顎左側第一大臼歯 見ないでデッサン、面取り～仕上げ完成	実習	見本模型なしでデッサンをする。完成後はチェックと修正をする。面取りを見本模型や実習帳なしで実施し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。
15 （12/24）	下顎左側第一大臼歯 見ないでデッサン、面取り～仕上げ完成	実習	見本模型なしでデッサンをする。完成後はチェックと修正をする。面取りを見本模型や実習帳なしで実施し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。

科目名	歯型彫刻応用 Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水 典子
		授業形態	実習		有		
（英）	Advanced Training of Dental Carving Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	1/17～2/25

講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、、基本的な知識や技術だけではなく臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	歯型彫刻の手法を用いて、技工物製作の基本となる歯の形態を細部にわたり製作できるようになる。
科目概要	歯の形態をデッサンと模刻を繰り返し練習することを通じて理解する。
到達目標	・歯型彫刻については見本模型を用いず40分以内に指定した歯種の外形、主溝、副溝を再現することができる。 ・歯のデッサンについては、見本模型を用いず15分以内に指定した歯種についての3面の線画を描記できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品（各評価の平均値）80点、レポート20点で評価する。提出物の期限は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 （医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。
参考図書	適宜紹介する。		
特記事項	デモンストレーション及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （1/17）	上顎左側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
2	上顎右側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
3	上顎左側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
4	上顎右側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
5	上顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
6	上顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
7	下顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
8	下顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
9	下顎左側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
10	下顎右側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
11	上顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
12	上顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
13	下顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
14	下顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
15 （2/25）	上顎右側犬歯：デッサン 下顎右側第一小臼歯：彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。

科目名	歯科技工実習総合Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	清水　典子
		授業形態	実習		有		
（英）	Training of Dental TechnologyⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	4/28～8/20
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が基本的な知識や技術だけではなく臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	課題を通じて今までに学んだ知識の理解度を深め知識・技術の向上を行う。						
科目概要	課題製作や合同実習を通じて、習得した知識や技能の理解を深める。						
到達目標	・様々な器材について理解し、基本的な器具の使い方について説明ができる。 ・大臼歯の歯型彫刻デモンストレーションが行え、製作の基本を説明できる。 ・歯のデッサン及び歯型彫刻について、指示された歯種を決められた時間で再現することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品（各評価の平均値）40点、実習指導に関するレポート40点、実習指導後の評価レポート20点で評価する。提出日は別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	新歯科技工士教本　口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （4/28）	技工器材の名称と基本的な使い方について	実習	歯科技工材料、機材について、下級生へ指導を行い自らの知識を深める。
2	技工器材の名称と基本的な使い方について	実習	歯科技工材料、機材について、下級生へ指導を行い自らの知識を深める。
3	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
4	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
5	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
6	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
7	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
8	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
9	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
10	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	決められた時間内に仕上げるために、彫るスピードと歯の特徴を再現できるようなるための技術を習得する。
11	歯型彫刻の基本操作について	実習	歯のデッサンと歯の彫刻の技術説明（解説）を行い自らの知識を深める。
12	歯型彫刻の基本操作について	実習	歯のデッサンと歯の彫刻の技術説明（解説）を行い自らの知識を深める。
13	歯のデッサン、歯の彫刻	実習	今までの知識を活かし課題製作を行う。
14	歯の彫刻	実習	歯科技工操作の技術指導をしながら自らの知識を深める。
15 （8/20）	歯の彫刻	実習	歯科技工操作の技術指導をしながら自らの知識を深める。

科目名	歯科技工実習総合Ⅳ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Training of Dental TechnologyⅣ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	12/6～2/25
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	これまでに習得した知識や技能を使用し、課題の製作を通じて技術の向上を行う。						
科目概要	課題の製作を通じて、「スピード」、「正確さ」を磨き、確実な知識と技能を身に付ける。						
到達目標	・歯のデッサン、歯型彫刻で指示された歯種を時間内に正確に再現することができる。 ・矯正歯科で用いるワイヤーの屈曲を指定時間内に製作することができる。 ・就職先の仕事内容に合わせて自力で、作品製作を行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品（各評価の平均値）80点、レポート20点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	新歯科技工士教本　歯冠修復技工学(医歯薬出版)	事前事後学習とその内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （12/6）	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
2	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
3	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
4	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
5	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
6	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
7	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	3つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。
8	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
9	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
10	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
11	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
12	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
13	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
14	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。
15 （2/25）	義歯の設計・ワックスアップ・彫刻	実習	義歯の設計や、運動や機能に合わせたワックスアップ、歯の特徴をとらえた歯型彫刻の技術を習得する。

科目名	課題研究実習Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Research and Professional Practice Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	5/7～7/13

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	卒業課題研究作品の製作を通して、今までに習得した知識と技術を結集させる。
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作する。
到達目標	・自ら設定した課題に基づいて、歯科技工物を製作することができる。 ・製作計画を立案し、実行できる。 ・作業模型製作、咬合器装着　症例の下準備状況をチェックしながら製作できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 計画書（レポート）の提出30点、実技試験として模型を適切に装着した咬合器の作品を70点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	歯科技工　アトラス（医歯薬出版）		
特記事項	展示物製作のほか、製作過程のレポートがある。写真撮影も行うこと。作業模型製作、咬合器装着、症例の下準備状況をチェックする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1（5/7）	模型製作と咬合器装着	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作　咬合器装着 ②PD模型製作　咬合器装着 ③FD模型製作　咬合床製作
2			
3	模型製作と咬合器装着	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作　咬合器装着 ②PD模型製作　咬合器装着 ③FD模型製作　咬合床製作
4			
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ　窓開け ②PD設計　維持装置製作・金属床設計　リリーフ　ブロックアウト ③FD咬合床製作　咬合器装着
6			
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ　窓開け ②PD設計　維持装置製作・金属床設計　リリーフ　ブロックアウト ③FD咬合床製作　咬合器装着
8			
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置　連結子製作・金属床　複印象　耐火模型製作 ③FD前歯部排列
10			
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置　連結子製作・金属床ワックスアップ ③FD臼歯部排列
12			
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床　スプルーイング　埋没 ③FD臼歯部排列
14			
15（7/13）			

科目名	課題研究実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Research and Professional Practice Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	7/20～9/17

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	卒業課題研究作品の製作を通して、今までに習得した知識と技術を結集させる。
科目概要	習得した知識や技術を検証し、卒業後の希望進路を踏まえた今後の課題設定ができる。製作手順を計画し、計画的に粘り強く作品を製作できることを目指す。
到達目標	・選択した課題について、実習計画に沿って製作することができる。 ・作品の製作と平行してレポート作成を進めることができている。 ・指定した製作過程まで製作を進めることができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験として指定した製作過程まで製作した技工物とそれを装着した咬合器の作品を90点、レポート10点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	歯科技工アトラス（医歯薬出版）		
特記事項	展示物製作をするだけでなく、過程をレポートにする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1（7/20）	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床　掘り出し　形態修正 ③FD歯肉形成
2			
3	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD歯肉形成　金属床　形態修正 ③FD歯肉形成
4			
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD歯肉形成　金属床　フレーム研磨 ③FD歯肉形成
6			
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作　咬合器装着 ②PD模型製作　咬合器装着 ③FD模型製作　咬合床製作
8			
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ　窓開け ②PD設計　維持装置製作・金属床設計　リリーフ　ブロックアウト ③FD咬合床製作　咬合器装着
10			
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置　連結子製作・金属床　複印象　耐火模型製作 ③FD前歯部排列
12			
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスプルーイング～埋没 ②PD維持装置　連結子製作・金属床　複印象　耐火模型製作 ③FD前歯部排列
14			
15（9/17）	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床　人工歯排列 ③FD埋没

科目名	課題研究実習Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Research and Professional PracticeⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科　Ⅰ部	単位	1			開講期間	12/7～3/10

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	卒業課題研究作品の製作を通して、今までに習得した知識と技術を結集させる。
科目概要	卒業課題研究作品を完成させ、レポートを通じて設定した課題と目指した技術の向上について検証を行う。また、製作で得られた内容についてプレゼンテーションで広く共有を行う。
到達目標	・実施計画に沿って作品を製作、完成させることができる。 ・製作過程と設定した課題について検証したレポートを制作することができる。 ・作品紹介のプレゼンテーションを行うことができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（　）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートの提出30点、作品（咬合器）60点、発表10点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	歯科技工アトラス（医歯薬出版）		
特記事項	展示物はその過程を記したレポートと共に展示する。左記を念頭に、製作すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （12/7）	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD流ろう・金属床　咬合調整　歯肉形成 ③FD流ろう　填入　重合
2			
3	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD流ろう・金属床　咬合調整　歯肉形成 ③FD流ろう　填入　重合
4			
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD掘り出し　咬合調整・金属床　コア製作 ③FD再装着　削合
6			
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD掘り出し　咬合調整・金属床　コア製作 ③FD再装着　削合
8			
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD形態修正　・金属床　レジン流し込み ③FD削合
10			
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD形態修正　・金属床　レジン流し込み ③FD削合
12	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床　形態修正 ③FD形態修正
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床　荒研磨 ③FD中研磨
14	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br追加～形態修正 ②PD研磨・金属床　研磨 ③FD研磨
15 （3/10）	レポート作成	実習	・卒業課題研究作品のレポートをまとめる。 ・プレゼンテーションの準備を行うことができるようになる。

科目名	インターンシップⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	演習		有		
（英）	Internship Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2			開講期間	6/10～7/21
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	現場見学や就業体験および体験発表を通じて、自らの進路決定の参考にする。						
科目概要	歯科技工業務の見学および就業体験を通じて、業界で活躍するために必要な自らの課題について理解する。						
到達目標	・歯科医療専門職として就業するために自らの課題を見つけることができる。 ・進路決定の準備を具体的にし行動に移すことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 期限を守って提出したレポートを評価する。提出するべきレポートは 職場見学レポート、職場体験レポートとする。 提出日は別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	就職活動サポートブック（本校オリジナル教材）	事前事後学習とその内容	事前学習として、訪問する施設情報をホームページなどで調べることを推奨する。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	レポート作成時に必要な写真を撮影しておく。その際には、様々な施設見学をするため撮影可能か確認を取る。						

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （6/10）	職場見学（グループ見学）	演習	①職場の概要・設備を確認する。②職場の業務内容を確認する。③臨床の現場を見る。④スタッフの方の話を聞く。⑤自分の今後の課題を発見する。
2	職場見学（グループ見学）	演習	①職場の概要・設備を確認する。②職場の業務内容を確認する。③臨床の現場を見る。④スタッフの方の話を聞く。⑤自分の今後の課題を発見する。
3	職場見学　見学共有	演習	①見学先ごとのグループに分かれる。②見学先の情報を共有する。③発表すべき内容を決める。④効果的なPPTを作成し、発表する。⑤他グループの発表を評価する。
4	職場見学　見学共有	演習	①見学先ごとのグループに分かれる。②見学先の情報を共有する。③発表すべき内容を決める。④効果的なPPTを作成し、発表する。⑤他グループの発表を評価する。
5	職場体験前準備　1	演習	歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて医療従事者としての将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度について実践する。
6	職場体験前準備　2	演習	歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて医療従事者としての将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度について実践する。
7	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
8	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
9	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
10	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
11	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
12	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
13	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
14	職場体験	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習（チェック・修正）⑥スタッフの仕事の観察する。
15 （7/21）	職場体験　体験共有	演習	①グループに分かれる。②体験先の情報を共有する。③お礼状を作成する。

科目名	総合歯科技工学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Technology – Comprehensive	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	1/12～1/19

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。
目的	卒業後の歯科技工業務を見据え、今まで履修した内容ををを総合的に習得する。
科目概要	歯科技工士として必要な知識を講義や試験形式で理解度の確認を行い、知識の定着と理解度を深める。
到達目標	・専門科目の枠を超え、総合的に考えることができる。 ・理解できない点、疑問点を発見し、それを理解することができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。卒業試験（有床、修復、解剖、理工、矯正、小児、顎口腔および法規）で評価する。 試験内容は、知識に対する総合的な理解を確認する。マークシート方式で出題する。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	新歯科技工士教本（8科目）（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （1/12）	まとめ1 有床義歯技工学・矯正歯科技工学	講義	技工に必要な有床義歯技工学・矯正義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
2	まとめ2 歯の解剖学・関係法規	講義	技工に必要な歯の解剖学・関係法規に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
3	まとめ3 歯冠修復技工学・顎口腔機能学	講義	技工に必要な歯の歯冠修復技工学・顎口腔機能学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
4	まとめ4 歯科理工学・小児歯科技工学	講義	技工に必要な歯の歯科理工学・小児歯科技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
5	まとめ5 有床義歯技工学・矯正歯科技工学	講義	技工に必要な歯の有床義歯技工学・矯正歯科技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
6	まとめ6 歯の解剖学・関係法規	講義	技工に必要な歯の歯の解剖学・関係法規に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
7	まとめ7 歯冠修復技工学・顎口腔機能学	講義	技工に必要な歯の歯冠修復技工学・顎口腔機能学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
8 （1/19）	まとめ8 歯科理工学・小児歯科技工学	講義	技工に必要な歯の歯科理工学・小児歯科技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名	総合歯科技工実習	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林　誠
		授業形態	実習		有		
（英）	Training of Dental Technology –Comprehensive	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	9/7～9/30

講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。
目的	総合的に歯科技工技術を習得する。
科目概要	・模型製作を通して、石膏操作の確認、咬合器装着をする。 ・指定された課題作品を製作する。
到達目標	・臨床的な模型製作ができる。 ・決められた時間内に指定された実習作品を完成させることができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験として「作品の評価」を90点、レポートを10点で評価する。作品は認定試験模型とし、提出日は別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　■ 実技試験　□ 論文　■ レポート

教科書	オリジナル実習帳等	事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （9/7）	彫刻トレーニング	実習	定められた時間内に歯型彫刻を行い、自己チェック後に教員がチェックを行い、正しい歯牙形態を習得する。
2	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
3	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
4	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
5	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
6	彫刻トレーニング	実習	歯型彫刻について、チェック修正を行い、正しい歯牙形態を習得する。
7	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
8	彫刻トレーニング	実習	歯型彫刻について、チェック修正を行い正しい歯牙形態を習得する。
9	彫刻トレーニング	実習	歯型彫刻について、チェック修正を行い正しい歯牙形態を習得する。
10	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。
11	彫刻トレーニング	実習	歯型彫刻について、チェック修正を行い正しい歯牙形態を習得する。
12	彫刻トレーニング	実習	歯型彫刻について、チェック修正を行い正しい歯牙形態を習得する。
13	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱い、咬合器装着の方法について理解を深める。
14	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱い、咬合器装着の方法について理解を深める。
15 （9/30）	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱い、咬合器装着の方法について理解を深める。

科目名	国際社会・文化Ⅱ	年次	2	選択科目	実務経験	科目責任者	岩佐 浩之
		授業形態	演習		無		
（英）	International community and culture Ⅱ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講期間	9/11～9/25
講師紹介	創業100年の老舗の三代目として、店舗を構え、多岐にわたりビジネスを立ち上げ（国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど）現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務中は、製造から営業までを経験する。専任講師としても9校の教鞭をとり、自らもフィリピンに日本語学校を設立し、世界を幅広く見つめる。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが医療ビジネスをわかりやすく講義します。						
目的	世界で活躍できる人材となるために、世界経済の動向をより深く理解しすることで、先々の業界の動向を意識し自国と日本とをつなぐ架け橋として、歯科技工について学んだことを世界に向けて発信できる力を習得する。						
科目概要	アジア歯科医療の高度化を担う人材となることを目指し、日本文化と国際社会の違いについて学び、持続可能な開発接点（SDGs）について記述できる。						
到達目標	・世界の歯科事情・金融・働くことについて関する知識を深める。 ・プレゼンテーション資料（パワーポイント）を完成させる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A（4.0）、89～80点B（3.0）、79～70点C（2.0）、69～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、各回レポートの評価を100点満点換算し、平均点にて行う。レポートの提出日については開校日に別途指示する。 □ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　■ レポート						
教科書	特になし	事前事後学習とその内容	母国の歯科事情、社会的背景、働くということについて事前に調べておくと、積極的に授業に参加できる。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	特になし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （9/11）	為替レート、給与、収入の種類につい	演習	・給与、自営、オーナー、投資について理解する。
2	それぞれの国の習慣、宗教、仕事に対する考え方について	演習	・日常生活に必要な知識を理解する。
3	日本の法律、ニュースの分析について	演習	・自分の頭で考えて行動できるようにニュースの分析について理解する。
4	マーケティングの基礎について	演習	・ユーザーは何に対価を支払うのか、顧客満足について理解する。
5	AIについて	演習	・民間企業が開発しているAIについて理解する。
6	SDGsについて	演習	・持続可能な開発接点について理解し、自分が今、行える取り組みについて理解する。
7	パワーポイント作成	演習	・「国際社会・文化Ⅰ」、「国際社会・文化Ⅱ」を受講し、自身の変化についての発表用パワーポイントを作成する。
8 （9/25）	発表	演習	・「国際社会・文化Ⅰ」、「国際社会・文化Ⅱ」を受講し、自身の変化について発表する。